

音楽的な表現力を追求した楽譜作成ソフト

DP

 **DORICO PRO**
Advanced Music Notation System

 **DORICO ELEMENTS**
Personal Music Notation System

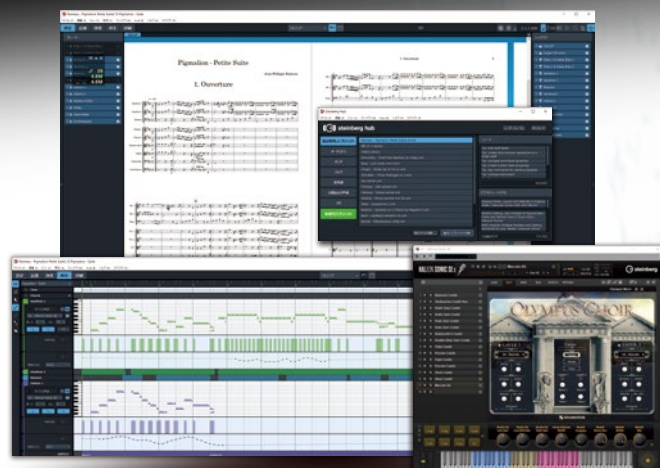
 **steinberg**

さらなる進化を遂げた Dorico 3.0!

音楽家の感性を伝えるためになくてはならない楽譜。その楽譜こそが音楽全体のクオリティに影響を与える重要な要素ともいえます。Dorico 3.0は、大編成のオーケストレーションからポピュラーミュージックに至るまで様々な記譜表現や演奏指示を網羅し、これらをスマートかつスピーディーに楽譜化することができる画期的な楽譜作成ソフトです。変則チューニングを含むギタータブ譜への対応や、記譜内容から自動的にハーブペダル記号を生成する機能などを新たに搭載し、より音楽的な表現力を追求したDorico 3.0は、あなたの楽譜制作環境を大幅に進化させます。

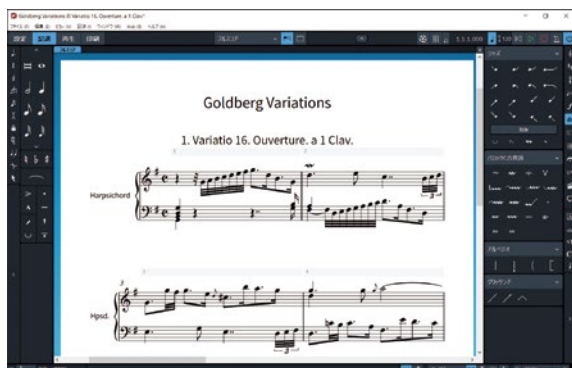
DORICO PRO₃

Dorico Pro 3.0は大編成からソロ楽器まで、ジャンルにこだわらず自在に楽譜作成が行えるインテリジェントな楽譜作成ソフトです。ギターをはじめとするフレット楽器のタブ譜表示に対応し、ポピュラー音楽の記譜にも自由度が増しました。弦の数やチューニングなどを設定しておけば、自動的にタブ譜変換も可能。さらにコードダイアグラムの表示も可能になりました。また、ハーブのペダル記号を入力した音符から自動的に作成する機能も搭載。指定のペダル記号では演奏できない音符をチェックできるなど、様々な新機能を追加しています。さらに再生音源としてSoundiron Olympus Choir Microのクワイア音色を搭載。合唱曲のスコアをリアルなchoir音色で再生することが可能です。



DORICO ELEMENTS₃

Dorico Pro 3.0のスピーディーかつ優れた楽譜作成機能を継承し、初心者から中級者を対象としたバージョンがDorico Elements 3.0です。もちろんギタータブ譜やハーブペダルの表示も可能(一部機能限定)。約2GBのプレイバック用音源多ライブラリーも付属しており、入門用としてとても優れた楽譜作成ソフトです。もちろんDorico Pro 3.0へのバージョンアッププランも用意されています。



通常版

オープンブライズ

JAN : 4018271470725

アカデミック版

オープンブライズ

JAN : 4018271470732

通常版 **クロスグレード**

オープンブライズ

JAN : 4018271470749

アカデミック版 **クロスグレード**

オープンブライズ

JAN : 4018271470756

DORICO PRO₃



DORICO ELEMENTS₃

通常版

オープンブライズ

JAN : 4018271470763

アカデミック版

オープンブライズ

JAN : 4018271470770



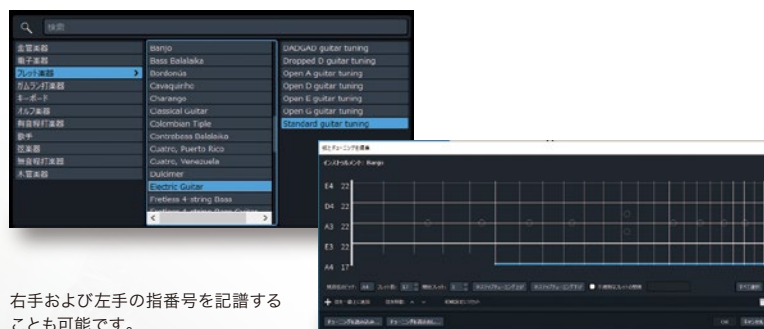
NEW Dorico 3.0の主な新機能

フレット楽器とタブ譜表記

オープンチューニングを含むギターや6弦ベースなどの多弦楽器、さらには民族楽器に至るまで、あらゆるフレット楽器でタブ譜表記ができるようになりました。

あらかじめ設定された各弦のチューニングおよび弦の数に応じて、入力した音程が自動的にタブ譜化されます。もちろん同じ音程を別の弦での表記に変更することも可能。またタブ譜表記も「音符のみ(タブ譜無し)」、「タブ譜のみ」、「音符とタブ譜(2段)」、「タブ譜のみ(リズム無し)」の4つの表記スタイルを選択することができます。また、特殊な弦数やチューニングの楽器をオリジナルで作成することもできるので、ポピュラーから伝統音楽まで様々な楽譜を作成することが可能です。

さらにコード表記にコードダイアグラム表示機能を追加。ギターだけでなくウクレレなどのコードダイアグラムを表示させることも可能です。もちろんオープンチューニングのギターにも対応。コードネームと楽器の種類を選択するだけで自動的にコードダイアグラムを作成することが可能です。



右手および左手の指番号を記譜することも可能です。



コンデンス

Violin I & IIの様に、調号が同じ複数のパートを1段にまとめて表記するコンデンスにも対応。コンデンスメニューを選択するだけで1段ずつ記譜された楽譜を瞬時に変換することが可能です。もちろん元の段数に戻すのもワンタッチ。印刷時に紙面スペースを節約して表記する際などにとても便利です。



クワイヤ音源の搭載と再生機能の向上

付属の再生音源 HALion Sonic SEに Soundiron 社の Olympus Choir Micro libraryを追加。"Oo"および"Ah"の2種類限定ですが、高品質なクワイヤボイスで、合唱曲のプレイバッククオリティを向上させます。また、再生テンプレートを編集できるようになったため、サードパーティ製のVSTプラグインをアサインしたインストゥルメントをテンプレート化できるなど、再生面での自由度が増しました。スコアのテンプレートと組み合わせることで、いつでもお好みのプレイバックサウンドで楽譜制作が始められます。さらに、再生時のリズムフィールに16分音符スイング(ハーフシャッフル)を追加。ヒップホップやスムーズジャズ系の音楽にも対応します。



ハープペダルの表記機能と自動解析機能を搭載

音名またはダイアグラム(右図参照)でハープのペダル指示を表記できるようになりました。フレーズを選択してメニューからハープペダル解析を選択するだけで、最適なハープペダルを自動的に作成できます。また、現在指定されているハープペダルでは演奏不可能なノートは赤く色分けされるので、実際に演奏できない楽譜になっていないかを確認することができます。



現在のペダルでは演奏できないノートを赤く表示

コメント記載や演奏表現の追加など、様々な新機能を搭載

同じDoricoプロジェクトを複数人で共有しながら浄書作業をする際に便利なコメント機能を搭載。フォント変更やフレーズチェックなどの細かい指示を的確に伝えることが可能です。また、コメントには返信機能もあるため対応未対応の確認にも便利です。記譜機能面では、sul ponticello(スル・ポンティチェッロ)やsul tasto(スル・タスト)をはじめ、様々な演奏技法を追加しました。これにより非常に細かい演奏指示を表現(記譜)することができるようになります。さらに小節番号の表示をプレイヤーごとに選択したり、段組の上または下に配置するなど、表示フォーマットをフレキシブルにしました。



Dorico 3.0 による楽譜制作の流れ



設定



記譜



浄書



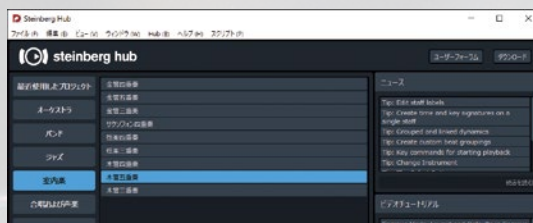
再生



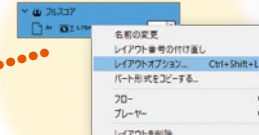
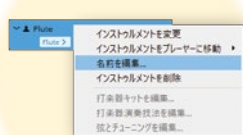
印刷

Doricoのユーザーインターフェースは、素早く美しい楽譜を作成することができるように、洗練された5つのモード※1をベースに作られています。また、起動時に表示されるSteinberg Hubには、様々なジャンルのテンプレートが用意されており、これらを選択するだけで、各楽器に最適な音部記号や調号(移調楽器の設定)、再生用インストゥルメントの設定をすべてDoricoが自動的に行います。もちろんテンプレートを使わずに1から楽譜をレイアウトすることも可能。Doricoでは楽譜の1段組にあたる部分をプレーヤーと呼び、各プレーヤーが何の楽器(インストゥルメント)であるのかを設定することで、その楽器に最適な楽譜を作成することができます。

※設定によっては1プレーヤーで複数のインストゥルメントおよび段組になる場合もあります。

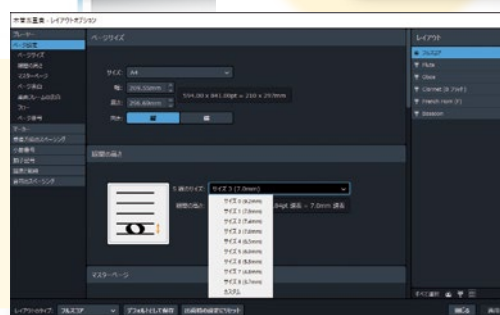


プレーヤーごとのインストゥルメントを変更したり、表記される名前を編集する場合には設定モードで行います。また設定モードの右側には作成したプレーヤー数と同数のレイアウトに加え、フルスコアというレイアウトが表示されます。フルスコアは文字通り全パートの楽譜、それ以外はプレーヤーごとのパート譜と言うことになります。レイアウトオプションでは楽譜の用紙サイズや五線の間隔など、様々な設定を行うことができます。フレット楽器のタブ譜表記をはじめ、楽器ごとの表記設定に関してもレイアウトオプションを使用して設定します。

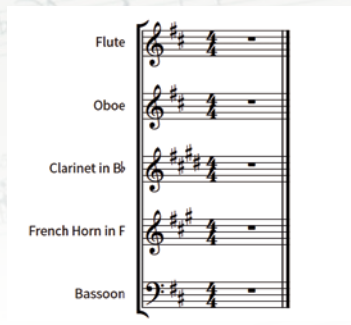


楽譜の左側に記載されるパート名の編集も簡単。1ページ目の名前と2ページ目以降の省略名を個別に編集できます。もちろん日本語表記もOK。

レイアウトオプションでは楽譜全体の表記方法を詳細に設定できます。五線の間隔も複数のプリセットが用意されているので、段数に合わせて選択するだけ。もちろん任意の値に設定することも可能です。

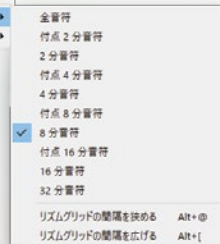
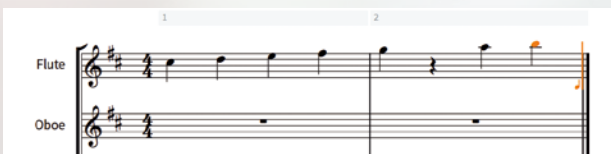
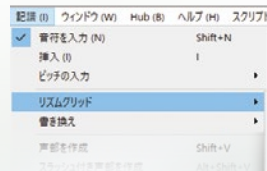
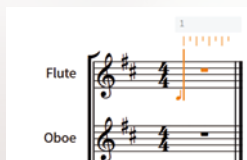


実際の音符の入力は記譜モードで行います。右側にある拍子および調号のボタンを押すと表示されるパレットで指定したい拍子や調号を選択し、先頭小節をクリックするだけで設定が行えます。拍子や調号を変更したい小節を選択してからパレットをクリックするだけでも挿入が可能。編集メニューの「移調音」を選択しているときには、移調楽器も自動的に調号が変更されます。

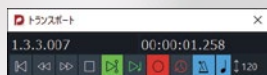


※1 Elementsには独立した浄書モードがありません。

拍子や調号を設定したら音符を入力するだけ。左側のパレットから音価を選択し、入力したい楽譜をダブルクリックするだけで入力待機状態に切り替わります。あとはキーボードのアルファベットキー **C D E F G A B** でドレミファソラシを入力。休符はパレットの休符ボタンを点灯させていづれかのアルファベットキーを押すか、スペースキーまたは右矢印キーで挿入位置を進めれば入力されます。記譜メニューのリズムグリッドを変更すれば、細かい休符を挿入することも可能。さらにはMIDIキーボードで入力したい音の鍵盤を押すだけでも入力が行えます。音価の設定はテンキーで変更できますので、テンキーとMIDIキーボードを組み合わせると、非常に高速に音符を入力することができます。



右上のトランスポートにある録音ボタンを使用してMIDIキーボードによるリアルタイム録音も可能です。



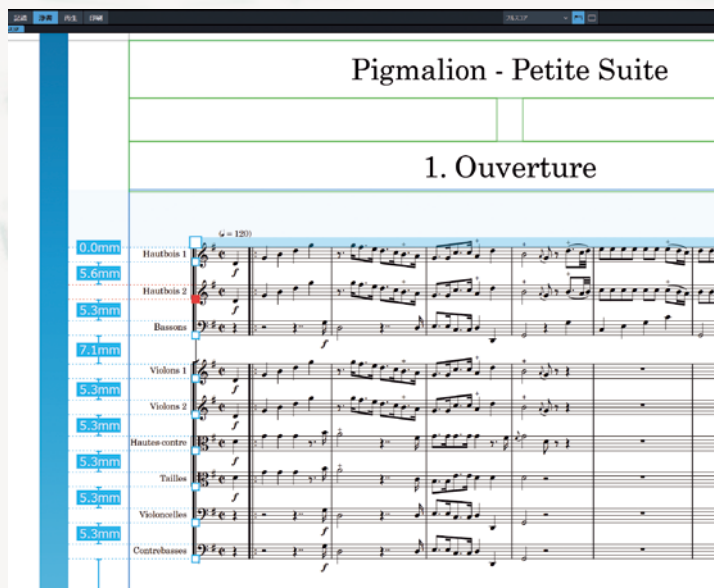
ウインドウメニューのトランスポートを選択して独立したトランスポートを表示させると選択位置からの再生や録音など、便利な操作も行えます。



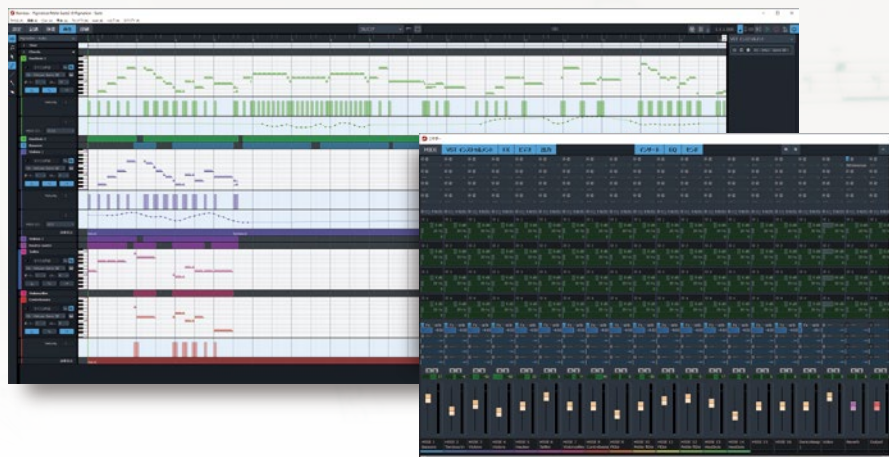
記譜モードでは強弱記号やトリルやアルペジオなどの演奏指定、さらには arco、や pizz. などの楽器ごとの演奏指示を入力することができます。もちろんこれらの演奏指示をVSTインストルメントの演奏内容に反映させることもできるため、楽譜と再生音を完全にリンクさせることが可能です。



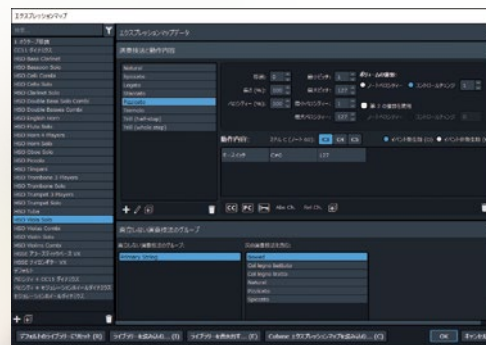
楽譜が完成したら印刷に備えて細かなレイアウトを行えるのが浄書モード※1です。タイトルや作曲者名などのテキスト情報、段落間のスペーシングや音符の間隔、さらには演奏指示表記の見た目やコード表記の設定などを細かく設定することができます。また、ページ内に写真や任意のテキスト、さらには任意の楽譜などを自由にレイアウトすることができるため、教則本の作成といった本格的なDTP作業を行うことも可能です。



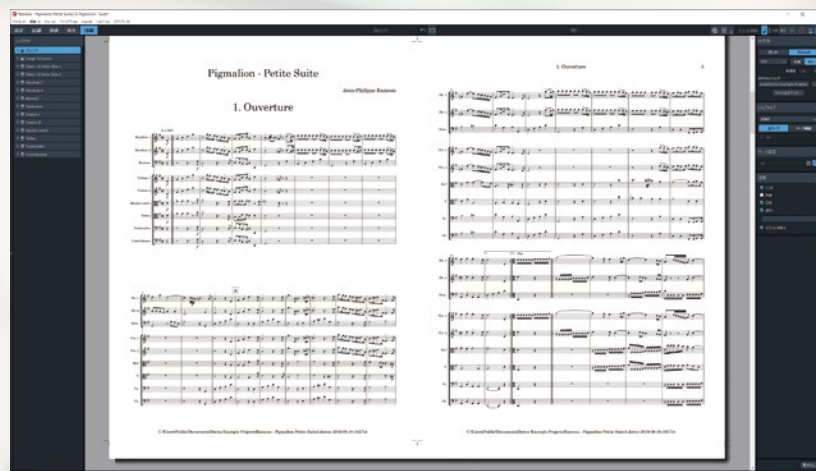
作成した楽譜を実際の音にして試聴するための様々な設定を行えるのが再生モードです。Doricoの再生モードは、本格的なDAWに匹敵する編集機能を備えています。その一つがピアノロール機能。同じ四分音符でも実際には少しだけ短めに演奏させたい場合や特定の音のベロシティを高くしたり低くしたりといった編集がグラフィカルに行えます。また、ボリュームやモジュレーションの設定などを書き込めるオートメーションレーンも装備。さらにパーカッションデータ用のトラック表示も可能です。



再生メニュー内にあるエクスプレッションマップを使用すれば、Doricoで記譜した演奏技法とVSTインストゥルメントのキースイッチなどをリンクさせたり、演奏指示ごとにベロシティやゲートタイムを変化させたりすることが可能です。もちろんサードパーティー製のプラグインにも対応していますので、お気に入りの音源を使用して再生することができます。

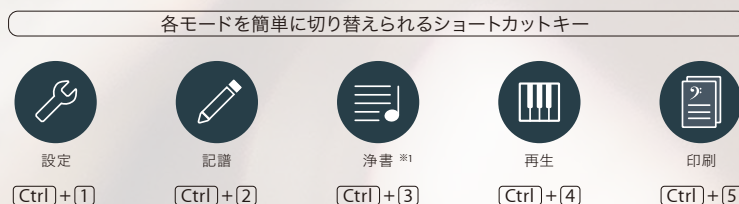


完成した譜面を印刷したりPDFとして書き出す際には印刷モードを使用します。見開き印刷や冊子印刷の設定の他、トンボなどの本格的なDTP設定も可能です。出力先タブでプリンターを選択すれば印刷、グラフィックを選択すればPDFをはじめPNG、SVG、TIFFの各フォーマットに最大1200dpiの解像度で出力することができます。

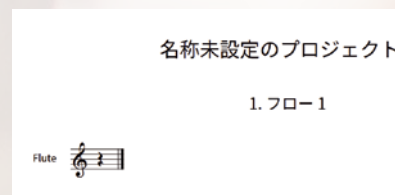


ショートカットキーとポップオーバーを使用してさらに高速な入力を実現

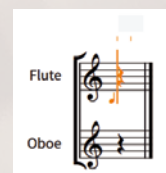
Doricoは様々な機能にショートカットキーが割り当てられており、それらを使用することで効率よく入力を行うことが可能です。ノートパソコンなど、マウスを使用しにくい環境でも高速な楽譜制作が行えます。例えば5つのモード※1を切り替えるには **[Ctrl]** キー + 数字キーの **①②③④⑤** を使用します。(Elementsでは **①②④⑤** となります。)



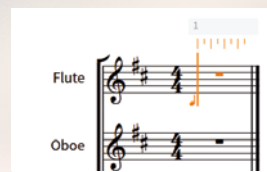
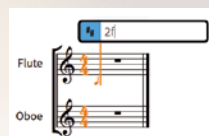
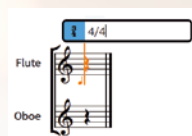
設定モードでのプレーヤーの追加もショートカット **[Shift] + [P]** で行え、さらに楽器名をキーボードで入力すればインストゥルメントも選択できます。



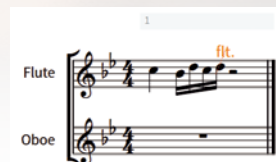
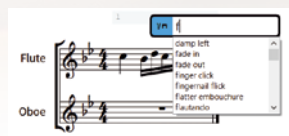
[Ctrl] + ② で記譜モードに移動したら上下矢印キーで入力したい段を選択し、**[Shift] + [N]** またはリターンキーを押してノート入力を開始します。(このときオレンジ色の縦線はキャレットが表示されます)



拍子入力も調号入力もショートカットで入力可能です。**[Shift] + [M]** で拍子入力用のポップオーバーが表示されますので、4/4とキーボードで入力してエンターキーを押せば4分の4拍子に設定が可能、調号は **[Shift] + [K]** で#2個なら「2s」、b2個なら「2f」と入力するだけで簡単に設定できます。

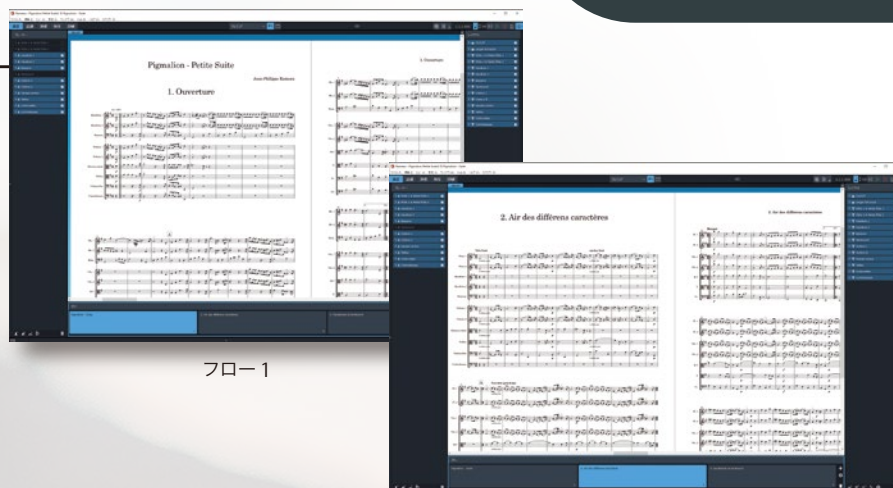


あとはアルファベットキーと数字キーによる音程と音価の組み合わせで入力を行うだけ。ポップオーバーは強弱記号や演奏技法など記譜モード右側のパレットにあるすべての機能に対応しているので、マウスを使用しなくても簡単に入力が可能です。



Dorico 独自のフロー機能

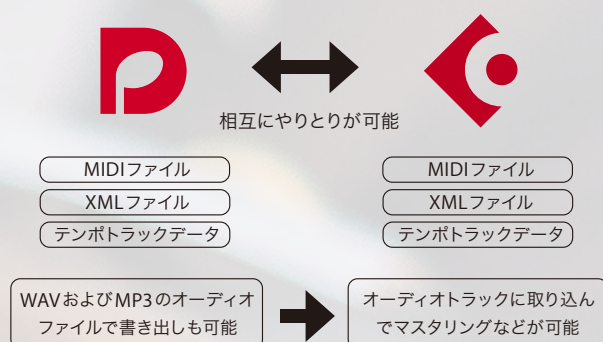
Doricoは同じプロジェクト内に複数楽曲の楽譜を持つことが可能なフロー機能を搭載しています。通常はフロー 1 として楽譜を作成しますが、フローを追加するとプロジェクト内のプレーヤーを使用したテンポも拍子も全く異なる楽曲の楽譜を新たに入力することができます。例えば同じ楽曲の第一章、第二章といった活用法や、劇伴や映画音楽などのプロジェクトを一つのファイルで管理するといった使い方が可能となります。



フロー 1

フロー 2

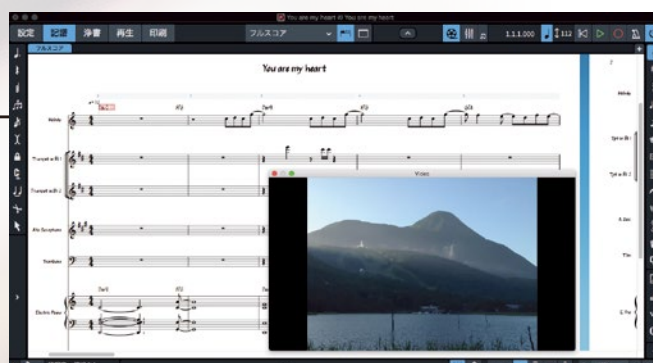
他の DAW との連携



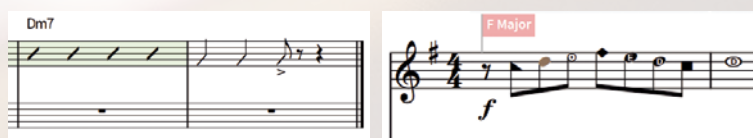
Doricoは他のDAWと組み合わせて使用できるようにスタンダードMIDIファイルの読み込みと書き出し、およびMusicXMLファイルの読み込みと書き出しにも対応しています。CubaseなどのDAWで作成したデータを楽譜にしたり、他の楽譜作成ソフトのデータをDoricoに取り込む際などにとても便利です。また、Doricoで作った再生状態をオーディオファイルとして書き出すことも可能。楽曲の雰囲気伝える資料としてWAVまたはMP3ファイルで書き出すことができます。

ビデオファイルの再生

Doricoにビデオファイルを再生する機能も搭載されています。楽譜内にビデオのタイムコードを設定できるので、映像に合わせた音楽制作も可能です。映画などの音楽作成には欠かせない機能と言えます。



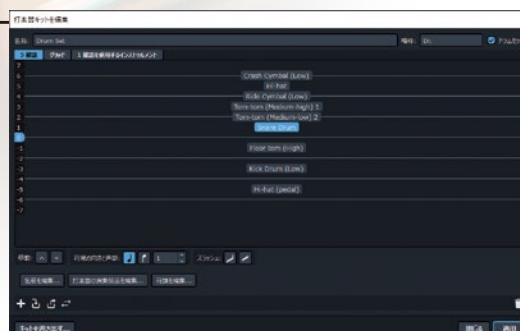
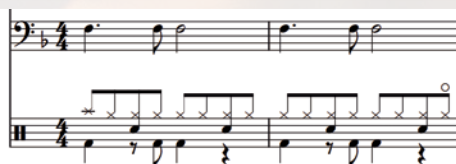
リズムスラッシュをはじめとする譜頭の自由度



Doricoの音符は譜頭を自由に設定することが可能です。リズム譜やキメを表示するのに最適なリズムスラッシュや音名付音符など様々な譜頭が用意されています。また、同じフレーズを繰り返すときに使用する小節反復記号も装備。ジャズやポピュラーミュージックで多用される記譜法にも対応しています。

ドラム譜をはじめとするポピュラーミュージックへの対応

Doricoはポピュラーミュージックの作曲や楽譜制作にも柔軟に対応しています。例えばドラム譜の表記。GM音源のドラムマップだけでなく、自由にドラムマップを作成することができるので、お気に入りのドラム音源と組み合わせてドラム譜を作成することができます。また、スタンダードMIDIファイルを読み込む際に、10チャンネルのデータをパーカッションマップで読み込むことができるので、瞬時にドラム譜として認識させることも可能です。



DORICO ELEMENTS

DORICO PRO

記譜		
臨時記号	標準、ダブル	標準、ダブル、微分音、カスタム
小節番号	単一フォーマット	マルチプルフォーマット
小節リビート	●	●
小節線	ノーマル、二重線、終止線、リビート	ノーマル、二重線、終止線、破線、短線、ディック、太線
音部記号	7 プリセット	26 プリセット
調号	最大 7 フラット/シャープ	フルカスタマイズ可能
音符 / 休符のカスタムグルーピング/括弧のカスタマイズ		●
ギタータブ譜/コードダイアグラム	限定	●
コード記号	1 プリセット	9 プリセット、カスタマイズ可能
コンデンシング/キュー/ディヴィジ/オシア/扇形連符、ステムレット		●
ドラム譜/リズムスラッシュ / 強弱記号 / 装飾音符 / 歌詞	●	●
ハーブペダル	限定	●
フェルマータ、中間休止	●	●
符頭	30 プリセット	30 プリセット、フルカスタマイズ可能
歌詞 / 装飾音符	●	●
オクターブ線 / ペダル記号	限定	フルカスタマイズ可能
楽器毎の譜表の数の変更		●
ページ番号	自動	カスタマイズ可能
奏法	220 プリセット	カスタマイズ可能
リハーサルマーク	限定	カスタマイズ可能
反復記号括弧/トレモロ (シングル/マルチ) / リズムスラッシュ	●	●
テンポ入力	●	●
無音程打楽器	限定	●
再生		
内蔵音色	1500 (2 GB ライブラリー)	2000 以上 (8 GB ライブラリー)
エフェクト	30	30
General MIDI 対応	●	●
HALion Sonic SE	●	●
HALion Symphonic Orchestra		●
Soundiron Olympus Choir Micro library	●	●
VST エクスプレッションマップ/サードパーティ VST 対応	●	●
記譜の解釈	固定	カスタマイズ可能
リビートの再生 / 強弱記号の再生 / テンポチェンジの再生	●	●
オートメーションデータの編集	●	●
浄書		
ページや組段切り替えの追加	●	●
専用の浄書モード		●
縦間隔の編集 / リズミックな間隔の編集 / グラフィカルな微調整		●
浄書オプション / 記譜オプション / 再生オプション		●
外部音楽フォントの使用		●
外部テキストフォントの使用	限定	フルカスタマイズ可能
カスタムコード表記		●
複数の譜表サイズを混合	●	●
音符間隔の設定	限定	フルカスタマイズ可能
譜表、組段の間隔	自動	フルカスタマイズ可能
記譜と編集		
挿入モード / 複数ベースト	●	●
リデュースとエクスプロード / 声部への貼り付け		●
フィルタリング	限定	フル
読み込みと書き出し		
MusicXML	読み込み / 書き出し	読み込み / 書き出し
オーディオ書き出し (WAV, MP3)	●	●
画像書き出し	●	●
MIDI ファイル	読み込み / 書き出し	読み込み / 書き出し
印刷		
複数コピーの印刷 / 冊子 / 見開き / 2ページを集約	●	●
動作環境		
OS	MAC : OS 10.12 / 10.13 / 10.14 Windows : Windows 10 (64ビット版のみ)	
CPU	64ビット Intel / AMD マルチコアプロセッサ (Intel i5 以上推奨)	
RAM	4 GB (8 GB 以上を推奨)	8 GB 以上を推奨 (最低 4 GB)
ディスク空き容量	6 GB 以上 (SSD 推奨)	12 GB 以上 (SSD 推奨)
推奨ディスプレイ解像度	1920 x 1280 以上 (最低 1366 x 768 以上)	
プロダクト	Soft e-Licenser	USB-eLicenser (要USB 端子)
その他	OS 対応オーディオデバイス (ASIO 対応デバイス推奨) インターネット環境: インストール、ライセンスアクティベーション、ユーザー登録等 * インストール時にアプリケーションや関連データ等のダウンロードが必要です * 高速ブロードバンドインターネット環境を推奨いたします	

Dorico のサポートについて

Dorico の操作に関するお問い合わせは、WEB フォームから承ります。電話でのサポート窓口はございません。具体的な作品の表現方法につきましては、サポートの範囲外となります。インストールなどの初期設定についてのご疑問に関しましては、よくあるお問い合わせ - Q&A をご参照ください。サポートをご利用いただくためには、株式会社ヤマハミュージックジャパンが輸入・販売した製品をご購入され、MySteinberg にユーザー登録を行っていただく必要がございます。

MySteinberg について

スタインバーグへのユーザーアカウント登録、製品登録や管理を行うための Web を使ったシステムです。お問い合わせにはユーザー登録が必要です。また、製品購入前のお客様もアカウント登録をして E メールニュースをご購読いただくことが可能です。
<https://www.steinberg.net/jp/mysteinberg.html>

Dorico 製品版同様の機能を、30日間無償で
お試しください。体験版をご用意しています。



https://www.steinberg.net/jp/products/steinberg_trial_versionen/dorico.html

ヤマハミュージックジャパンでのお問い合わせ対応やバージョンアップ 販売などのサービスは、ヤマハが輸入・販売した製品に同梱のライセンスコードでユーザー登録された方に限ります。なお、日本国内から Steinberg Online Shop へアクセスして購入された製品もサポート対象です。ただし、Steinberg Online Shop にてバージョンアップ版を購入された場合、その元となる製品がヤマハが輸入・販売した製品である必要がございます。製品をお求めになる際やお問い合わせの際は、ご注意くださいようお願いいたします。

* 機能限定・簡易サポート対象バンドル専用ソフトウェアについては、ソフトウェアのインストール、アクティベーション、バンドルされているハードウェアとの初期設定など、ご購入から使い始めまでの簡易サポートのみ行っております。あらかじめご了承ください。

* 記載の製品名、会社名及びロゴ等は各社の商標もしくは登録商標です。* 使用前に付属のマニュアルをよくお読みの上、ご使用ください。
* 掲載製品の最新 OS への対応状況や動作環境、各種アップデートデータなどは、<http://japan.steinberg.net/> にてご確認ください。
* 仕様 / デザイン / 価格等は予告なく変更することがあります。

輸入・販売元 株式会社ヤマハミュージックジャパン

<http://japan.steinberg.net/>

2019年9月作成 カタログコード -DE2350